9月4日(水)朝礼のお話　　（今月の食育）

箸と日本人

今日はお箸の話をしたいと思います。私たち日本人にとっては食事の時になくてはならないものが箸ですね。でも世界中を見てみると箸で食事をする人ばかりではありません。世界中の人が10人集まったら道具を使わずに手で食べる人が4人、ナイフとフォークで食べる人が3人、そして箸を使って食べる人が3人という割合だそうです。

箸で食事をする人は主に東アジアと呼ばれる地域の人たちです。国の名前で言うと日本、中国、韓国、モンゴル、ベトナムといった国です。でもこれらの国の中で食事に箸だけを使うのは日本だけだと言われています。中国や韓国でもお箸を使って食事をしますが、箸だけではなく、必ずスプーンや匙(さじ)をセットにして使います。日本でも食事の時にスプーンを使ったりすることはありますが、箸だけでも食事ができてしまうのは日本の食事の大きな特徴です。

箸だけで食事ができる理由は大きく二つあります。一つは食べ物の中心がごはんだということです。日本で食べるようなねばりのあるご飯を食べるにはお箸が一番便利です。おかずの中心であった野菜や魚を食べるにもやっぱり箸が便利です。もう一つの理由は食事のマナーに関係します。日本ではみそ汁のような汁物を食べる時には器を持ち上げて口に直接つけて食べますね。これは中国や韓国にはない習慣です。これらの国では器を持ち上げて食べるのはお行儀が悪いことだとされていて、汁物はスプーンや匙ですくって食べることになっています。

箸だけで食事をする日本人にとって箸の使い方はとても大事です。箸はただの二本の棒ですが、実に色々な使い方ができます。お箸にできることは、切る、つまむ、はさむ、はこぶ、くるむ、すくう、押さえる、ほぐす.まぜる... これだけのことをお箸だけでやってしまうわけですから日本人の器用さはお箸を使うことからも生まれているのかもしれまれませんね。皆さんはお箸を上手に使えますか？

日本人にとって箸は単に食事の道具にとどまりません。日本人の一生は箸に始まり、箸に終わると言われています。

赤ちゃんが生まれて100日目くらいに「お食い初め」というお祝いをします。この時、赤ちゃんにお箸を使ってものを食べるまねをします。これは一生食べ物に困らないようにという願いが込められています。その後、毎日の食事をお箸で食べて大きくなります。そして、年をとって亡くなるとお葬式のあと火葬にしたお骨を箸でひろう、「お骨上げ」をします。このように、日本人とお箸は切っても切れないものですね。今日の給食もお箸で食べるようになっています。食べながら今日のお話を考えてくれたらうれしいです。

今日のお話はこれで終わりです。今日も最後まで一生懸命に聴いてくれてありがとう。二学期が始まったばかりでまだペースのつかめない人もいると思います。焦らずゆっくりとやっていきましょう。お話を終わります。